



Infor LN 倉庫管理 納品書と出荷 ユーザガイド

Copyright © 2017 Infor

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲読に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	whdelnoteshipmug (U8982)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017年12月19日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
納品書.....	7
第2章 納品書設定.....	9
納品書の設定方法.....	9
輸送管理における納品書の設定.....	11
セットアップ.....	11
第3章 納品書の作成.....	13
納品書の作成方法.....	13
納品書データと仮/確定 ID 番号.....	13
第4章 納品書と出荷.....	15
出荷を既存の納品書にリンクする方法.....	15
積荷に出荷を含める方法.....	15
別の積荷へのお荷の移動.....	16
マニュアルで作成された出荷.....	16
マニュアル出荷を作成およびメンテナンスするには.....	16
出荷データを修正するには.....	17
出荷構造の構成 - コンテナ処理.....	19
マニュアル.....	19
自動.....	19
適用なし.....	19
(自動) コンテナへのお荷のリンク.....	20
出荷参照に基づく出荷作成.....	21
出荷ごとに固有のお荷参照.....	21
出荷ごとに 1 出荷参照.....	22
出荷参照のシナリオ.....	22
輸送との統合.....	23
納入地点に基づく出荷構築.....	23
[積荷ごとに 1 出荷先コード] チェックボックスに基づく積荷構築.....	25
倉庫管理における運送業者選択と原価計算.....	26

納品書 - 輸送中の商品の所有権.....	26
第5章 納品書のメンテナンス.....	29
納品書をメンテナンスするには.....	29
納品書状況.....	29
納品書を出力するには.....	29
第6章 出荷.....	31
出庫扱い単位用の梱包処理と出荷処理.....	31
扱い単位の充填.....	31
充填の条件.....	32
梱包参照配分の検証/CINDI.....	33
扱い単位の構成.....	33
出荷の構成.....	34
出荷ラインの分割.....	34
出荷伝票.....	35
資材の完全梱包.....	35
オーダ入力.....	35
出庫処理.....	36
CINDI 処理.....	36
輸送 ID.....	36
物流ゾーン/工順コード.....	37
消費地/仕向地.....	37
登録承認番号/カンバン/納入コール番号.....	37
付録A 用語集.....	39
索引	

文書情報

このガイドでは、納品書の設定と使用について説明します。

対象者

本書では、納品書の使用法および納品書機能の設定方法について、目的達成のために最適な方法で学習したい方を対象としています。エンドユーザおよび管理者レベルのユーザのいずれも、必要な情報が見つかります。

前提とする知識

倉庫での出庫商品の扱いを含む業務プロセスに精通し、LN の機能に関する一般的な知識があると、本書の理解に役立ちます。さらに、倉庫管理トレーニングコースを受講すると、理解を深めることができます。

本書の概要

第 1 章「概要」では、納品書の用途および一般特性について説明しています。

その後続く章では、マスタデータおよびパラメータの設定を処理し、納品書を作成して出荷へリンクする方法および納品書のメンテナンスについて説明しています。

本書では、納品書を使用して実行する手順について説明し、LN で実行する基本的な処理に関する情報を提供しています。最も重要なセッションウィンドウおよびそこに含まれるフィールドについて解説していますが、すべてのソフトウェア構成要素を完全に説明することは本書では想定していません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

本書の使い方

本書はオンラインヘルプのトピックから構成されています。そのため、マニュアル内のその他のセクションへの参照は、次の例のように示されています。

詳細については、「納品書の出力方法」を参照してください。

参照セクションを探すには、目次を参照してください。

下線の付いた用語は、用語定義へのリンクを示しています。本書をオンラインで表示した場合は、下線の付いたテキストをクリックすると、本書の巻末にある用語定義に移動します。下線の付いていない参照には、用語定義やその他の要素へのリンクはありません。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

納品書

納品書は、トラック (またはその他の車両) 1 台を含む委託に関する情報を提供し、納品先住所の荷受人のオーダまたはオーダセットを参照する輸送文書です。トラックの積荷にさまざまな取引先向けの出荷が含まれる場合は、積荷に複数の納品書が含まれます。

納品書の情報には、納期と住所、顧客の名称、委託の内容などが含まれています。イタリアでは納品書は法律上必須の伝票であり、BAM (Bolla Accompagnamento Merci) と呼ばれていました。現在は DDT (Documento di Trasporto) と呼ばれています。ポルトガルとスペインでも納品書が使用されますが、イタリアのように法的な効力はありません。

納品書とは、出荷手順の一部となる出荷伝票の1つです。さまざまなパラメータ設定を使用して、納品書の機能を使用するかどうか、そしてその方法を管理します。

納品書の設定方法

納品書の機能を問題なく動作させるには、倉庫管理でさまざまなパラメータを設定し、データを定義する必要があります。また、輸送を使用する場合は、輸送でも同様に設定と定義を行います。輸送での納品書設定の詳細については、輸送管理における納品書の設定 (ページ 11)を参照してください。

ステップ 1: 納品書の機能の有効化

納品書の機能を使用可能にするには、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [コンセプト (ロジ)] タブで [納品書] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2: 理由の定義

理由 (tcmcs0105m000) セッションの [理由] フィールドで、理由タイプが [納入コード] である理由と、理由タイプが [輸送理由] である理由の 2 つを定義します。

納入コードは、納品書にリストされている商品の輸送に関して支払を行うパーティを示します。たとえば、「顧客」、「発注先」、「出荷」などの納入コード理由を定義できます。輸送理由は、輸送が発生する理由を示します。たとえば、「販売」、「廃物置場」、「修理」などです。さらに、輸送理由と納入コードを使用して納品書を出荷に引き当てて、出荷を積荷に結合します。

これらの理由コードは、販売オーダーライン、販売スケジュール、サービスオーダー、およびメンテナンス販売オーダーに入力できます。納品書が作成されるときに、デフォルトで理由コードが納品書に入力されます。これらのオーダーに入力されなかった場合は、倉庫オーダーおよび出荷に理由コードを入力できます。デフォルトの理由コードは、オーダータイプおよび倉庫に定義できます。これについては、以下のステップで説明しています。

ステップ 3: オーダータイプのデフォルト理由の定義

発生元別デフォルトオーダータイプ (whinh0120m000) セッションでは、発生元オーダーの特定オーダータイプにリンクされた倉庫オーダータイプに、デフォルトの納入コードおよび輸送理由を定義できます。この方法でできることは、ユーザが納入コードまたは輸送理由を発生元オーダーに入力しなかった場合に、特定タイプの発生元オーダー用に作成された倉庫オーダーに関して、納入コードまたは輸送理由をデフォルト設定することです。その後、納入コードまたは輸送理由が出荷、積荷、および納入書に渡されます。

ステップ 4: 納品書パラメータの設定

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの次のフィールドで、必要な値を選択します。

- [納品書の原価/サービス品目を出力]
- [納品書の製造品目または構成要素を出力]
- [番号グループ]
- [シリーズ]

ステップ 5: ユーザプロファイルの設定

- ユーザプロファイル (whwmd1140s000) セッションでの [納品書のシリーズ] フィールドで、必要なシリーズを選択します。
- ユーザ別デフォルトデバイス (whwmd1545m000) セッションで、納品書の出力 (whinh4477m000) セッションに必要なデフォルトデバイスを選択します。

ステップ 6: 出荷手順への納品書の出力の追加

納品書が出力されるようにするには、手順別活動 (whinh0106m000) セッションで、納品書が必要とされる出荷手順の活動として納品書の出力 (whinh4477m000) セッションを定義します。

ステップ 7: 倉庫の納品書の有効化または無効化

それぞれの倉庫について、倉庫から出庫された品目に納品書を出力するかどうかを指定する必要があります。

これらの設定により、倉庫手順設定 (前のステップを参照) は無効になります。つまり、特定の倉庫への納品書の出力は不要と指定した場合は、このオーダの倉庫手順に納品書が含まれていても、この倉庫からの品目の出庫を要求するオーダに納品書が出力されることはありません。

このためには、倉庫 (whwmd2500m000) セッションの次のフィールドで、必要な値を選択します。

- [輸送文書]
- [出力梱包票の抑制]

ステップ 8: オーダ活動のために納品書出力活動を調整

倉庫オーダ別活動 (whinh2104m000) セッションで納品書の出力 (whinh4477m000) セッションが特定の出荷手順のための活動として定義されている場合、この出荷手順を使用する個々の倉庫オーダの活動について次の設定を調整できます。

- [自動] チェックボックスをオンまたはオフにする
- [出力デバイス] リストからプリンタを選択する

しかし、納品書を制御する倉庫手順設定は倉庫の納品書設定 (前のステップを参照) によって無効になることに注意してください。

ステップ 9: オーダライン活動のために納品書出力活動を調整

出庫オーダライン別活動 (whinh2124m000) セッションで納品書の出力 (whinh4477m000) セッションが特定の出庫手順のための活動として定義されている場合、この出荷手順を使用する個々の倉庫オーダラインの活動について次の設定を調整できます。

- [自動] チェックボックスをオンまたはオフにする
- [出力デバイス] リストからプリンタを選択する

しかし、納品書を制御する倉庫手順設定は倉庫の納品書設定 (ステップ 7 を参照) によって無効になることに注意してください。

輸送管理における納品書の設定

納品書は、出荷手順の実行時にオプションで作成される出荷伝票の 1 つです。パラメータの設定により、納品書機能を使用するかどうか、およびその使用方法が制御されます。

納品書機能が使用される場合、輸送は、輸送計画または輸送オーダクラスタのために輸送オーダをグループ分けするときの基準に、以下の納品書属性を追加します。

- [輸送理由]
- [納入コード]

このように、輸送オーダから作成されたクラスタは納品書別にグループ化され、また、輸送オーダから作成された出荷は納品書と積荷別にグループ化されます。積荷には、納品書別出荷の複数のグループを取り込むことができますが、1 つの納品書は複数の積荷を参照することはできません。複数の積荷に出荷を取り込む必要がある場合は、追加の積荷ごとに新しい納品書が作成されます。

納入コードおよび輸送理由は、発生元オーダで入力されて輸送オーダに転送されます。発生元オーダで入力されない場合は、輸送オーダで輸送オーダタイプ - デフォルト (fmfmd0165m000) セッションからデフォルト値が取得されます。これらの属性は、輸送オーダでマニュアルで入力することもできます。

納品書は、倉庫管理で作成されてメンテナンスされます。詳細については、納品書 (ページ 7) を参照してください。

セットアップ

目的の方法で納入コードおよび輸送理由を使用して、輸送計画または輸送オーダクラスタのための輸送オーダを選択するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1: 輸送オーダタイプのデフォルト値の定義

輸送オーダタイプ - デフォルト (fmfmd0165m000) セッションで、輸送オーダタイプの納入コードと輸送理由のデフォルト値を定義できます。このようにすれば、ユーザが特定のタイプの発生元オーダについて納入コードまたは輸送理由を入力しなかった場合に、そのタイプの発生元オーダについて作成された輸送オーダで納入コードまたは輸送理由にデフォルト値が使用されます。次に LN は、納入コードまたは輸送理由を輸送オーダから作成された出荷、積荷、および納品書に転送します。

ステップ 2: 計画マトリックスの定義

計画マトリックス (fmfoc1120m000) セッションで、納入コードおよび輸送理由を輸送オーダーラインの計画グループを取得する基準として定義できます。

ステップ 3: 出荷オフィスマトリックスの定義

出荷オフィスマトリックス (fmfoc1140m000) セッションで、納入コードおよび輸送理由を輸送オーダーの出荷オフィスを取得する基準として定義できます。詳細については、輸送オーダーグループおよび出荷オフィスと計画グループの使用を参照してください。

納品書の作成方法

さまざまな出荷データが、先に作成されている納品書のデータに一致する場合を除き、納品書は出荷の作成時に自動的に作成されます。データが以前の納品書データに一致する場合は、出荷が既存の納品書にリンクされます。その結果、納品書は複数の出荷を参照できるので、出荷を介して複数の発生元オーダーにリンクできます。

納品書データと仮/確定 ID 番号

納品書が作成されるときに、納品書のデータが出荷からコピーされます。納品書には仮納品書番号が取得され、納品書が参照する出荷にも表示されます。

納品書に示されている 1 つ以上の出荷ラインが凍結または確認されると、最終的な納品書番号が生成されます。詳細については、出荷と積荷の状況を参照してください。

納品書の作成後、納品書をメンテナンスして、仮バージョンおよび最終バージョンを出力することができます。

出荷を既存の納品書にリンクする方法

LN では、次の値が一致する場合に、出荷を既存の納品書にリンクします。

出荷元データ

- [出荷元コード]
- [出荷元タイプ]
- [出荷元住所]

出荷先データ

- [出荷先タイプ]
- [出荷先コード]
- [出荷先住所]
- [運送業者/LSP]
- [経路]
- [輸送理由]
- [納入コード]
- [受渡条件]
- [販売先取引先]
- [請求先の取引先]
- 出荷の重量が原因となって、積荷の [総重量] が積荷の [最大重量] を超過することはありません。

積荷に出荷を含める方法

納品書の機能を使用する場合に、同じ納品書に引き当てられた出荷は、1つの積荷にグループ化されます。積荷には複数グループの納品書別出荷を含めることができますが、1つの納品書で複数の積荷を参照することはできません。複数の積荷を出荷に含める必要がある場合は、追加する積荷ごとに1つ以上の新しい納品書を作成します。

出荷に出荷ラインを含める場合、次の基準が追加されます。

- [輸送理由]
- [納入コード]

積荷に出荷を含める場合、次の基準が追加されます。

- 出荷の重量が原因となって、積荷の [総重量] が積荷の [最大重量] を超過することはありません。

別の積荷への出荷の移動

出荷を別の積荷に移動する場合に、LN では、出荷データが、積荷に存在する出荷の納品書データと一致するかどうかチェックされます。一致する場合は、出荷がその納品書に引き当てられません。一致しない場合は、移動する出荷用の納品書が作成されます。

マニュアルで作成された出荷

倉庫オーダの出荷を作成する以外にも、LN でマニュアルで出荷および出荷ラインを作成できます。マニュアル出荷を利用して、LN の倉庫手順および関連する会計取引を実行しないで商品を出荷します。

マニュアル出荷および出荷ラインを使用すると、LN に登録されていない品目の商品輸送、または倉庫オーダが存在しない商品輸送を登録できます。たとえば、不合格商品を廃品工場に輸送します。

マニュアルで作成された出荷の場合、納品書を出力できます。

マニュアル出荷を作成およびメンテナンスするには

出荷をマニュアルで作成するには、出荷 (whinh4130m000) セッションまたは出荷 (whinh4630m000) セッションのツールバーにある をクリックします。

これらのセッションでは、次のフィールドが必須です。

- [住所]
- [出荷元タイプ] マニュアル出荷には、「ワークセンタ」と「倉庫」のみが適用可能であることに注意してください。
- [出荷元コード]
- [シリーズ]
- [住所]
- [出荷先タイプ]
- [出荷先コード]

LN ではマニュアル出荷に倉庫処理は実行されないため、[倉庫手順] フィールドに出荷手順を入力する必要はありません。

[シリーズ] フィールドでデフォルトシリーズを置換できます。

マニュアル出荷は積荷にリンクできます。出荷を積荷にリンクしない場合は、出荷が確認されると、LN で出荷に積荷が作成されます。出荷を積荷にリンクするには、[積荷] フィールドで必要とする積荷を選択します。その結果を受けて、積荷のデータが出荷にコピーされます。

[仮納品書] フィールドで出荷に納品書を選択しない場合でも、出荷に定義された出荷元/出荷先倉庫で納品書の使用が有効になっていれば、出荷が確認されるときに LN によって出荷に納品書が作成されます。

マニュアル出荷に対して、LN では事前出荷通知を作成しません。

マニュアル出荷を更新するには

マニュアル出荷に関して、次のフィールドを更新できます。

- [危険資材]
- [リスク分類]

出荷の凍結または確認の処理の結果を受けて、マニュアル出荷の状況が更新されます。詳細については、出荷と積荷の状況を参照してください。

マニュアル出荷の重量は、出荷に追加された出荷ラインの重量から更新されます。

出荷が引き当てられる積荷用に積込リストが作成されると、積込リスト連番が更新されます。

マニュアル出荷を削除するには

出荷状況が [オープン] の場合、出荷 (whinh4130m000) セッションまたは出荷 (whinh4630m000) セッションでマニュアル出荷を削除できます。確定出荷/積荷の削除 (whinh4250m000) セッションでは、状況が [確認済] のマニュアル出荷を削除できます。

マニュアル出荷ラインを作成するには

作成済の出荷およびマニュアルで作成された出荷の両方について、マニュアル出荷ラインを作成できます。

マニュアル出荷ラインには、LN に存在する品目またはアプリケーション内に存在しない品目を入力できます。

たとえば、マニュアル出荷ラインを使用すると、オーダされている納入以外に、オーダに一覧表示されていないが、納品書には一覧表示する必要のある納入 (景品など) を登録できます。納入するコンピュータそれぞれに、マウスパッドを無料で付ける場合があります。

出荷ラインをマニュアルで作成するには、出荷 - ライン (whinh4131m000) セッションまたは出荷 (whinh4630m000) セッションのツールバーにある をクリックします。

マニュアル出荷ラインの場合、作成する出荷ラインに同じ属性を使用できますが、次の場合を除きます。

- ロットとシリアル番号の生成
- 扱い単位の生成
- 梱包構造の作成

出荷データを修正するには

LN では、出庫処理の後の段階でオープン出庫の倉庫出荷データおよび積荷データを修正できません。

次のフィールドを修正できます。

- [出荷先住所]
- [納入地点]
- [権利移動地点]
- [受渡条件]

[出荷先タイプ] フィールドが [取引先] に設定され、かつ出荷 [状況] が [オープン] の場合にのみ、データの修正ができます。出荷ラインが凍結済の場合、出荷ラインのデータを変更することはできません。データを修正するには、出荷ラインを凍結解除します。出荷伝票が出力済の場合は、出荷伝票の出力状況が「出力済」から「出力予定」にリセットされます。伝票を再出力する必要があります。

[出荷先住所] の修正

- LN では、出荷ヘッダの [出荷先住所] フィールドを変更できます。
- 1 つの積荷について、経路が異なる複数の出荷がある場合、出荷データを修正することはできません。ただし、出荷を新しい積荷に移動してから [出荷先住所] を修正できます。これにより、出荷ラインの [出荷先住所] が修正されます。

[出荷先住所] を変更した結果

- 出荷ヘッダおよび出荷ライン (指定した場合) の [納入地点] フィールドも、修正できます。[納入地点] の指定は必須ではありません。
- 出荷ヘッダの [経路] の値も修正できます。積荷内の出荷が単一である場合、[経路] は自動的に更新されます。1 つの積荷に経路が異なる複数の出荷がある場合、更新はできません。
- 課税方式が変更された場合、[出荷先住所] を修正することはできません。
- 出荷にリンクされている [納品書] も修正できます。積荷にリンクされている出荷が1つのみの場合、[出荷先住所] が修正された出荷にリンクされている [納品書] を修正できます。[納品書] が、出荷先住所が異なる複数の出荷にリンクしている場合、修正済出荷が既存の納品書から削除されて新しい納品書にリンクされます。納品書がすでに出力済の場合にのみ、出荷の削除後に既存の納品書を再出力する必要があります。

[納入地点] の修正

- 出荷ヘッダの [出荷先住所] の一部を構成する [納入地点] を修正できます。出荷 (whinh4130m000) セッションの [納入地点] チェックボックスがオンの場合、出荷ヘッダの [出荷ごとに 1 納入地点] の変更内容が出荷ラインでも適用可能です。
- ただし、出荷作成基準の [出荷ごとに 1 納入地点] が選択されていない場合、[納入地点] の修正はできますが、変更内容を出荷ラインに適用することはできません。

[権利移動地点] の修正

- 出荷の [権利移動地点] も修正できます。

[受渡条件] の修正

- LN では、出荷ヘッダの [受渡条件] を修正できます。[受渡条件] を修正した場合 [納品書] フィールドの値が変更されます。修正した出荷が納品書にリンクされた唯一の出荷である

場合は、納品書も修正されます。異なる複数の受渡条件を持つ1つの [納品書] が複数の出荷にリンクしている場合、修正済出荷が既存の納品書から削除されて新しい納品書にリンクされます。

出荷構造の構成 - コンテナ処理

ここでは、該当する場合にコンテナをマニュアルで作成する必要があるかどうか、またLNで最初のコンテナが自動的に作成されるかどうかについて説明します。次の [コンテナ処理] オプションが用意されています。

- [マニュアル]
- [自動]
- [適用なし]

出荷コンテナは、輸送用に出荷を梱包する手段です。1つの積荷に複数のコンテナをリンクできません。また、1つの出荷コンテナに複数の出荷 (出荷先コードが異なる) をリンクできます。

[マニュアル]

出荷コンテナの作成と出荷コンテナへの出荷の割当は完全なマニュアル処理です。LNで出荷構造が構成されると、デフォルトですべての出荷が [出荷構造の構成] グラフィカルブラウザフレームワーク (GBF) の [コンテナなし] ノードに追加されます。出荷コンテナをマニュアルで作成した後、出荷を [コンテナなし] から新規に作成した出荷コンテナに移動させる必要があります。

注意

[マニュアル] オプションは、次の [在庫処理タイプ] には適用されません。

- [入庫]
- [仕掛品振替]

[自動]

[自動] オプションを指定すると、LNで最初の出荷コンテナが作成され、この出荷コンテナに出荷が自動的に割り当てられます。LNでは、積荷/出荷の構築時に出荷コンテナが自動的に作成され、このコンテナが積荷/出荷にリンクされます。

注意

[自動] オプションは、次の [在庫処理タイプ] には適用されません。

- [入庫]
- [仕掛品振替]

[適用なし]

[適用なし] オプションを指定すると、出荷コンテナの概念が使用されません。このため、LNで出荷コンテナが作成されません。オプションが [適用なし] の場合は、マニュアルでも出荷コンテナを作成できません。

注意

[適用なし] オプションは、次の [在庫処理タイプ] には適用されません。

- [出庫]
- [転送]

(自動) コンテナへの出荷のリンク

例

次の各シナリオでは、出荷コンテナに出荷をリンクさせる方法と使用可能なコンテナがない場合に出荷コンテナを作成する方法を示します。

- シナリオ 1: 積荷、状況 = 「オープン」
状況が「オープン」のコンテナの数 = 1: このコンテナに新規の出荷をリンクさせる必要があります。

例

- コンテナ 1、状況 = 「確認済」
- コンテナ 2、状況 = 「確認済」
- コンテナ 3、状況 = 「凍結済」
- コンテナ 4、状況 = 「オープン」

この場合は、状況が「オープン」のコンテナに新規の出荷がリンクされます。

- シナリオ 2: 積荷、状況 = 「オープン」
状況が「オープン」のコンテナの数 = 2: 「コンテナなし」ノードに新規の出荷をリンクさせる必要があります。

例:

- コンテナ 1、状況 = 「確認済」
- コンテナ 2、状況 = 「確認済」
- コンテナ 3、状況 = 「オープン」
- コンテナ 4、状況 = 「オープン」

この場合は、どのコンテナを使用する必要があるかをユーザが判断できるように、「コンテナなし」ノードに新規の出荷がリンクされます。

- シナリオ 3: 積荷、状況 = 「オープン」
状況が「オープン」のコンテナの数 = 0
この場合は、新規のコンテナが作成され、新規のコンテナに新規の出荷がリンクされます。
- シナリオ 4: 積荷、状況 = 凍結済/確認済
この場合は、新規の積荷と新規のコンテナが作成され、新規のコンテナに新規の出荷がリンクされます。

出荷参照に基づく出荷作成

出荷構築とは、ピッキング済出庫勧告に基づいて出荷が自動的に作成される処理です。

出荷構築基準を次に示します。

- 出荷元タイプ、出荷元コード、出荷元住所
- 出荷先タイプ、出荷先コード、出荷先住所
- 積荷計画 (Y/N)
- マニュアル出荷 (Y/N)
- オフィス
- オフィス会社
- 経路
- 受渡条件
- 権利移動地点
- 輸送理由
- 運送業者
- 計画納期
- 納入地点
- 出荷参照

さまざまな基準の中でも特に出荷参照によって、発注先倉庫からピッキングされた商品がどのように出荷に分類されるかが決まります。同じ出荷参照が適用された販売スケジュールラインの品目を1つの出荷として顧客に出荷する必要があります。これは自動車業界では、ピックアップシート (PUS) 処理と呼ばれています。出荷参照は、主に発生元が販売スケジュールの倉庫オーダーについて生成されます。出荷参照の値は、販売スケジュール計画倉庫オーダー (tdsls3520m000) セッションの [出荷参照] フィールドによってオーダー管理から倉庫管理に渡されます。

出荷参照に基づいて次の出荷作成パラメータを倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションで使用できます。

- [出荷ごとに固有の出荷参照]
- [出荷ごとに 1 出荷参照]

[出荷ごとに固有の出荷参照]

このチェックボックスがオンの場合、LNにより、各出荷参照番号について固有の出荷が作成されます。次の場合には、同じ出荷参照に対して複数の出荷を作成することができません。

- それぞれの出荷の出荷先取引先が同じである
- 出荷先取引先は異なっているが、それぞれの出荷の販売先取引先が同じである。ただし、出荷先取引先が異なっており、関連した販売先取引先も異なっている場合は、LN で同じ出荷参照に複数の出荷を作成することができます。

このパラメータは次の結果を伴います。

- 出荷参照基準によって、計画納期の出荷作成基準が無効になります。すべてのスケジュールラインで計画納期は異なっているが、出荷参照は同じである場合は、該当する出荷参照に対し、すべてのスケジュールラインを含む 1 つの出荷が作成されます。
- 品目が完全に不足しているピックアップシートラインには、出庫勧告と出荷ラインが作成されません。同じピックアップシートのそれ以外のラインは、ピッキングして出荷できま

す。品目が不足している出庫ラインはオープンのままになり、すでに出荷されたピックアップシートのピックアップシート番号が割り当てられます。このようなオープンのままの出庫ラインを処理すると、使用済のピックアップシート番号が設定された出荷が作成される場合があります。スケジュールラインを取り消すか、またはスケジュールラインに新しいピックアップシート番号を割り当てることができます。

注意

- 同じ出荷参照に対し確定出荷がすでに存在する場合は、LN で出荷の作成が中止され、エラーメッセージが表示されます。
- 出荷を分割/構成する場合には、1つのピックアップシート番号に対し複数の出荷が発生したり、逆に1つの出荷に対し複数のピックアップシート番号が発生したりしないようにする必要があります。出荷を構成した結果、ピックアップシート番号の重複が発生した場合は、LN で出荷の作成が中止され、エラーメッセージが表示されます。

[出荷ごとに 1 出荷参照]

このチェックボックスがオンの場合、LN で同じ出荷参照に複数の出荷を作成できます。このパラメータは次の結果を伴います。

- 出荷参照が同じで、計画納期が異なる2つの出荷ラインが存在する場合は、同じ出荷参照が適用された2つの出荷が作成されます。
- 異なる出荷参照番号が設定された複数の出庫ラインは別々の出荷に配置されます。
- 他の出荷作成基準で許可されている場合、同じ出荷参照番号が設定された複数の出庫ラインは同じ出荷に配置されます。それ以外の場合は、別々の出荷に配置されます。

出荷参照のシナリオ

既存の出荷ヘッダの内容	出庫ラインの出荷参照	関連オーダータイプが単一参照であるか (Yes/No)	アクション
単一参照 = No、出荷参照 = 空	空	No	出荷に追加
	空	Yes	出荷に追加
	AAA	No	出荷に追加
	AAA	Yes	新しい単一参照出荷の作成
単一参照 = No、出荷参照 = AAA (このシナリオでは、エンドユーザが出荷ヘッダの出荷参照をマニュアルで入力する)	空	No	出荷に追加
	空	Yes	出荷に追加
	AAA	No	出荷に追加

	AAA	Yes	出荷に追加 (すべての出荷ラインに参照「AAA」が設定されており、これが単一参照出荷になる場合)、新しい単一参照出荷の作成 (それ以外の場合)
	BBB	なし	出荷に追加
	BBB	Yes	新しい単一参照出荷の作成
単一参照 = Yes、出荷参照 = AAA	空	No	新しい出荷の作成
	空	Yes	新しい出荷の作成
	AAA	No	出荷に追加
	AAA	Yes	出荷に追加
	BBB	なし	新しい出荷の作成
	BBB	Yes	新しい単一参照出荷の作成

単一参照 = Yes、出荷参照 = 空
適用なし

輸送との統合

ピックアップシート処理に使用されているフィールドのうち、[出荷参照] フィールドは、輸送が導入されている場合に出庫オーダーライン (whinh2120m000) セッションから対応する輸送オーダーに転送されます。輸送パッケージでは、このような出荷参照 (入力されている場合) は、計画の生成 (fmlbd0280m000) セッションでの積荷作成手順で出荷作成基準として考慮する必要があります。

[出荷ごとに 1 出荷参照] チェックボックスをオンにして計画の生成 (fmlbd0280m000) セッションを実行する際に、異なる出荷参照が適用可能な場合は、複数の出荷を作成する必要があります。このことは、複数の出荷が同じ移送先住所かつ同じ日時に (つまり、同じ積荷内で) 納入される場合にも当てはまります。

たとえば特定の期間/輸送オーダー範囲について [出荷ごとに固有の出荷参照] チェックボックスをオンにして計画の生成 (fmlbd0280m000) セッションを実行する際に、納入日時が異なる複数の輸送オーダーライン (出庫ライン) に同じ参照がリンクされている場合は、LN で 1 つの参照につき 1 つの単一出荷を作成する必要があります。これは、両方のラインが同じ 1 つの出荷に含まれるように、オーダーラインの納入日時の範囲が広げられることを意味しています。1 つの単一出荷を作成するためには、必ず他の基準 (該当する場合) も満たされていなければなりません。

納入地点に基づく出荷構築

出荷構築とは、(ピッキング済) 出庫勧告に基づいて出荷が自動的に作成される処理です。

納入地点の値は、販売スケジュールライン (tdsls3107m000) セッションの [納入地点] フィールドを介して販売から倉庫管理に渡されます。スケジュールラインが倉庫管理に転送された時点で、納入地点が出庫倉庫オーダーラインに渡されます。

既存の出荷構築基準を次に示します。

- 出荷元タイプ、出荷元コード、出荷元住所
- 出荷先タイプ、出荷先コード、出荷先住所
- 積荷計画 (Y/N)
- マニュアル出荷 (Y/N)
- オフィス
- オフィス会社
- 経路
- 受渡条件
- 権利移動地点
- 輸送理由
- 運送業者
- 計画納期
- 納入地点
- 出荷参照

LN では、商品の移送先が最も詳細に定義されているレベルは出荷先取引先と出荷先住所です。ただし、顧客/相手先ブランド製造者 (OEM) の施設が広大であるために、商品を入庫できる納入地点が複数存在することがよくあります。商品の納入が円滑に済むように、発注先/輸送会社は、商品の荷卸を行う特定の納入地点を把握しておく必要があります。このためには、納入地点を納品先住所に追加し、出荷構築基準に含めます。

LN では、出荷ラインと同じ「納入地点」が設定された出庫勧告が 1 つの出荷に分類されます。倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [出荷ごとに 1 納入地点] チェックボックスを使用すると、出荷構築時に出荷ラインを納入地点別に分類できます。このチェックボックスがオンの場合、LN で出庫ラインが次のとおりに分類されます。

- 他の出荷構築基準で許可されている場合、同じ納入地点が設定された複数の出庫ラインは、同じ出荷に出荷ラインとして配置されます。それ以外の場合は、別々の出荷に出荷ラインとして配置されます。つまり、特定のケースでは、同じ納入地点に対して複数の出荷を作成することができます。
- 異なる納入地点が設定された複数の出庫ラインは別々の出荷に配置されます。

納入地点に基づいて出荷が作成されるシナリオの例を次に示します。

オーダー	位置	出荷先取引先	納入地点	出荷
SSC000123	10	VW	ドック A	SHP000234
SSC000123	20	VW	ドック B	SHP000235
SSC000124	10	Opel	ドック A	SHP000236
SSC000125	10	VW	ドック A	SHP000234
SSC000126	10	Opel		SHP000237

輸送との統合

出庫オーダーラインに納入地点が指定されており、倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [出荷ごとに 1 納入地点] チェックボックスがオンになっている場合は、その納入地点が対応する輸送オーダーに渡されます (輸送が導入されている場合)。[出荷ごとに 1 納入地点] チェックボックスは、輸送では変更することができません。つまり、輸送での積荷構築は常に、倉庫管理の出荷構築指示書に基づいて行われることとなります。これは、輸送の計画エンジンによって、納品先住所ではなく納入地点ごとに別々の出荷が構築されることを意味しています。このため、1つの積荷内の 1 つの荷卸住所に対して複数の出荷が発生することがあります。

[積荷ごとに 1 出荷先コード] チェックボックスに基づく積荷構築

既存の積荷構築基準を次に示します。

- 経路
- 計画納期
- 納入運送業者
- 集荷業者
- 最大積荷重量
- 積荷ごとに 1 オーダー

倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [積荷ごとに 1 出荷先コード] チェックボックスを使用すると、出荷の出荷先コードが同一である積荷を作成できます。このチェックボックスがオンの場合、次のように出荷が 1 つの積荷にまとめられます。

- 同じ出荷先コードが設定された複数の出庫ラインは同じ積荷に配置されますが、これは他の積荷構築基準で許可されている場合に限りです。
- 異なる出荷先コードが設定された複数の出庫ラインは別々の積荷に配置されます。

倉庫管理における運送業者選択と原価計算

倉庫管理での実際の出荷構築にもとづいて輸送費の原価計算と請求が行われるビジネスシナリオでは、LNで出荷にかかる輸送費を計算し、最適な運送業者と輸送手段グループまたは輸送手段の組合せを選択することができます。このようなシナリオの場合、出荷は輸送パッケージの計画エンジンである計画の生成 (fmlbd0280m000) セッションでは作成されませんが、倉庫管理では倉庫から出庫される実際出荷/物理的出荷になります。倉庫出荷が輸送パッケージに渡されるのは、倉庫管理でその出荷が確認された後です。倉庫出荷が輸送で受領されると、輸送積荷と出荷が作成され、輸送費を顧客に請求できるようになります。

詳細は、次のオンラインヘルプを参照してください:

- 輸送レートおよび輸送費パラメータ (fmfrc0100m000) セッションの [倉庫出荷でのレートおよび運送業者/LSP 選択] フィールド
- 積荷 (whinh4140m000) セッションの [見積輸送費]、運送業者/LSP の選択、および運送業者/LSP選択のログフィールド

納品書 - 輸送中の商品の所有権

納品書が出力される場合、商品の所有者データも含まれます。この所有者データは、次の階層に基づいて取得されます。

1. [所有権] フィールドの値が [顧客所有] の場合、所有権データは出荷ライン所有権 (whinh4138m000) セッションから取得されます。
注意: この所有者は、オーダーに記載されている出荷先の取引先以外の別の取引先の場合があります。
2. 転送オーダーでは、次の条件が満たされる場合、所有権データは出荷ライン所有権 (whinh4138m000) セッションから取得されます。
 - [所有権] フィールドの値が [委託] である
 - [出庫の所有権変更] チェックボックスがオフになっている
3. 出荷 (whinh4130m000) セッションの [権利移動地点] フィールドの値が [仕出地] の場合、所有権データは、納品書 (whinh4135m000) セッションの [請求先の取引先] フィールドで指定されている取引先から取得されます。
出荷 (whinh4130m000) セッションの [権利移動地点] フィールドの値が次のいずれかの場合、所有権データは、納品書 (whinh4135m000) セッションの [出荷元] フィールドから取得されます。
 - [仕向地]
 - [指定場所]
注意: この [権利移動地点] は、受渡条件 (tcmcs0141m000) セッションで指定された [受渡条件] で指定できます。
ステップ1および2で指定されたセッションで所有権データが定義されていない場合、このステップが実行されます。

4. 所有権データが指定されたセッションで定義されていない場合、所有権データは 倉庫 (whwmd2500m000) セッションで取得されます。

納品書をメンテナンスするには

納品書は、納品書 (whinh4135m000) セッションでメンテナンスします。このセッションでは、納品書の状況が [完了] 以外である場合に、納品書をメンテナンスできます。詳細については、納品書状況 (ページ 29)を参照してください。

状況が [完了] である場合は、納品書に関連するすべてのオーダーがすべて処理済であれば、納品書を削除できます。

納品書状況

- 取消済
納品書が示す積荷が取消済になっています。
- オープン
納品書が示す出荷の少なくとも 1 つは [オープン] 状況になっています。
- 凍結済
納品書が示す出荷の少なくとも 1 つは [凍結済] 状況になっており、[オープン] 状況になっている出荷はありません。
- 確認済
納品書が示すすべての出荷が [確認済] 状況になっています。
- 完了
納品書が示す積荷が [確認済] 状況になっており、最終バージョンの納品書が出力されません。

納品書を出力するには

出荷手順に納品書の出力が含まれている場合は、出荷手順が適用される出荷に自動的にまたはマニュアルで納品書が出力されます。納品書の出力 (whinh4477m000) セッションで、仮バージョンまたは確定バージョンの納品書をマニュアルで出力することができます。

出庫扱い単位用の梱包処理と出荷処理

業界は、製品を効率的に納入するために各種の梱包処理と出荷処理を必要としています。

梱包処理と出荷処理を強化するために、次の機能を利用できます。

- 扱い単位の充填
- 資材の完全梱包 (ページ 35)
- 梱包参照配分
- 出荷順序
- スtockポイント詳細の統合

扱い単位の充填

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの [ストックポイントを1つの出荷ラインに統合] パラメータに基づいて、扱い単位を充填し、出荷ラインを統合できます。

同一の扱い単位構造内で扱い単位を充填する前提条件は次のとおりです。

- 出荷ラインの梱包定義コードが、ピッキングした商品の梱包定義と一致する必要があります。
複数品目の構造を扱うときにはテンプレートも比較されます。
 - ノード数が等しい必要があります。
 - 梱包品目数量が等しい必要があります。
 - 補助梱包品目が同一である必要があります。
 - 補助梱包品目数量が等しい必要があります。
- 扱い単位は在庫に存在してはならず、ピッキング確認処理で生成される必要があります。扱い単位が在庫からピッキングされる場合、ピッキングリストの [出荷] が入力されます。この状況では、ピッキングリストがクローズされ、内容が [出荷用扱い単位] に転送されます。
- 使用する場合、単一梱包参照が、扱い単位テンプレートに一致する必要があります。
- 充填時に、単一扱い単位に入れられる品目が、ピッキング済品目に一致する必要があります。
- ピッキングされて同一出荷に入れられた商品は、扱い単位構造に従って充填されます (可能な場合)。

充填の条件

出荷作成処理の開始時に、商品の出荷に使用できる既存の出荷ラインがチェックされます。ピッキング時の扱い単位が作成されるときに、ピッキングした商品が扱い単位に達しない場合、出庫オーダーラインの梱包定義が使用されます。梱包定義が入力されると、この梱包定義に基づいて、関連する扱い単位と同じ梱包定義を持つ既存の出荷ラインが検索されます。出庫オーダーラインに梱包定義が定義されていない場合、出荷作成処理により、梱包定義を持たない出荷ラインが検索されます。ピッキング時の扱い単位が作成されるときに、関連する扱い単位を持つ出荷ラインも検索され、適宜充填されます。

ピッキング済商品に使用可能な出荷ラインが特定された場合、次のアクションが実行されます。

- 梱包定義について現在の扱い単位構造を検証する。検証が不合格の場合、ピッキング済商品について新しい扱い単位構造が作成される。これは、扱い単位に関連するすべての出荷ラインの [状況] が [発送確定済] に設定されている場合のみです。 [状況] が [オープン] の扱い単位が存在する場合、検証なしで充填が実行されます。
- まだ全量に達していない単品にピッキング済の商品が追加され、内容が既存の扱い単位に追加される。関連する制約:
 - 単一の扱い単位の品目は、ピッキング済品目と同一である必要がある
 - 参照、梱包参照 A、および梱包参照 B が同一である必要がある
- マスタ扱い単位にまだ利用可能なスペースがある場合、梱包をマスタ扱い単位 (複数可) に追加する

単一品目の制約:

- マスタについて扱い単位 (whwmd5130m000) セッションの [単一参照] チェックボックスがオンの場合、マスタ扱い単位の参照がピッキング参照と一致する必要がある
- マスタについて扱い単位 (whwmd5130m000) セッションの [単一梱包参照 A] チェックボックスがオンの場合、マスタ扱い単位の梱包参照 A がピッキング済の梱包参照 A と一致する必要がある
- マスタについて扱い単位 (whwmd5130m000) セッションの [単一梱包参照 B] チェックボックスがオンの場合、マスタ扱い単位の梱包参照 B がピッキング済の梱包参照 A と一致する必要がある

複数品目の制約:

- ピッキングしたピッキングリストに関連する出庫オーダーラインの扱い単位テンプレートについて、扱い単位テンプレート (whwmd4160m000) セッションの [出荷に対して複数の品目を許可] チェックボックスをオンにする必要がある
- 扱い単位テンプレートが、梱包品目と一致する必要がある (梱包品目の内容を除く)
- マスタについて [単一参照] インジケータが選択されている場合、マスタ扱い単位の参照はピッキング済参照と一致する必要がある
- マスタについて [単一梱包参照 A] チェックボックスがオンの場合、マスタ扱い単位の [梱包参照 A] がピッキング済梱包参照 A と一致する必要がある
- マスタについて [単一梱包参照 B] チェックボックスがオンの場合、マスタ扱い単位の [梱包参照 B] がピッキング済梱包参照 A と一致する必要がある
- 既存のマスタ内容を追加できないか単一参照の制約が一致しない場合、かつまだ梱包が必要な商品が存在する場合は、新規のマスタ扱い単位を追加する

梱包参照配分の検証/CINDI

正しくない構造での出荷を防ぐために、出荷を確認する前に構造の検証を実行します。確認/凍結する出荷ラインの場合、梱包参照配分の検証の基準は扱い単位構造です。CINDIの詳細については、CINDI 処理 (ページ 36)を参照してください。

扱い単位の構成

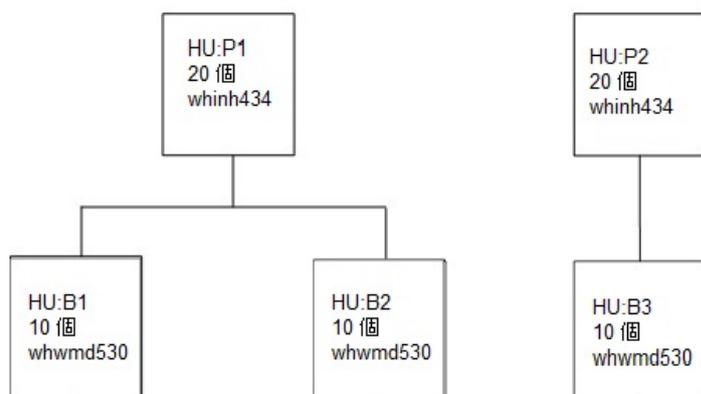
扱い単位の構成時に、参照に関するチェックを実行する必要があります。ある親から別の親に扱い単位を移動するときに、扱い単位作成の制約が考慮されます。

例

次の扱い単位が定義されます。

ノード	梱包品目	単一梱包参照	単一梱包参照 A	単一梱包参照 B
1	パレット	V	V	X
2	ボックス	V	V	V

次の扱い単位構造が存在します。



扱い単位 P1 に関して、次の参照が入力されます。

- 参照: REF001
- 参照 A: REFA001
- 参照 B: REFB001

扱い単位 P2 に関して、次の参照が入力されます。

- 参照: REF001
- 参照 A: REFB001
- 参照 B: REFB001

ユーザが扱い単位 B2 を P1 から P2 に移動しようとする時、エラーメッセージが表示されます。これは、親扱い単位 (パレット) の参照 A が一致しないからです。次の表に、ボックス全体の移動が可能な場合を示します。

ターゲット (パレット)		パレット P1 単一参照: V 単一参照 A: V 単一参照 B: V			パレット P2 単一参照: X 単一参照 A: V 単一参照 B: V			パレット P3 単一参照: V 単一参照 A: X 単一参照 B: X			パレット P4 単一参照: X 単一参照 A: X 単一参照 B: X		
		参照 001	参照 A A01	参照 B B01	参照 001	参照 A A02	参照 B B02	参照 002	参照 A A01	参照 B B01	参照 002	参照 A A01	参照 B B01
参照 参照 A 参照 B	001 A01 B01	V			X			X			V		
参照 参照 A 参照 B	001 A02 B01	X			V			V			V		
参照 参照 A 参照 B	002 A01 B01	X			X			V			V		
参照 参照 A 参照 B 参照 参照 A 参照 B	001 A01 B02 002 A02 B02	X			X			X			V		
参照 参照 A 参照 B	003 A03 B03	X			X			X			V		

出荷の構成

出荷ラインをある出荷から別の出荷に移動すると、出荷ライン参照配分も新しい出荷ラインに移動します。参照配分がコピーまたは更新されます。扱い単位構造を構成することにより、扱い単位をマニュアル入力する必要があります。

出荷ラインの分割

出荷ラインを分割すると、梱包参照配分も分割されます。扱い単位を出荷ラインから分割すると、扱い単位参照フィールドを使用して、コピーする出荷ライン参照配分の部分が決定されます。

ただし、扱い単位が存在せず、出荷ライン参照配分が存在する場合、分割する数量は、割り当てられた梱包参照配分の割合を継承します。分割数量のすべてが割り当てられるまで、配分が高いラインの順に使用されます。

出荷伝票

通常、扱い単位は出荷伝票に出力されます。ある出荷について、複数品目扱い単位構造が存在する場合、複数品目レベルは出力されません。

資材の完全梱包

自動車製造元が受け取る資材の数量と梱包方法。自動車製造元は多くの場合、完全梱包資材 (木枠、ボックス、パレットなど) のみを受け取ります。これは、梱包構造のすべてのレベルに適用することも、特定のレベルにのみ適用することもできます。LN では、これは扱い単位構造の各梱包レベルで [完全梱包のみ] の機能を使用して管理できます。

[完全梱包のみ] の機能の影響:

オーダー入力

販売スケジュールに関連する扱い単位テンプレート内にあるノード/レベルについて [完全梱包のみ] の機能を導入した場合、計画倉庫オーダーの数量は、完全梱包数量の倍数になります。販売契約ラインのロジスティックデータについて梱包定義が定義された場合、販売スケジュールと、使用する扱い単位テンプレートとの間に関係が設定されます。これにより、ユーザは販売スケジュールについて [完全梱包のみ] の機能を有効にすることができます。

計画倉庫オーダーを作成し、その計画倉庫オーダーについて梱包定義または扱い単位テンプレートの [完全梱包のみ] チェックボックスがオンになっている場合、オーダー数量は必ずしもリンクされた販売スケジュール (複数可) の合計にならないことがあります。これは、完全梱包のみの条件に合わせて数量を調整可能であるからです。1つのオーダーの梱包品目数量の倍数は、梱包定義と品目から決定されます。例:

ノード	梱包品目	梱包品目数量	数量 (保管単位)	完全梱包のみ
1	パレット	1	0 個	なし
2	ボックス	10	0 個	あり
3			100	あり

この例のオーダー数量は、梱包品目数量 10 個の倍数にする必要があります (ノード 3 の 100 個は、ノード 2 のボックス 10 単位に梱包される)。保管単位は、棚卸単位と同一です。保管単位にボックスを使用し、1つのボックスに 4 個を入れることにした場合、次のようになります。

ノード	梱包品目	梱包品目数量	数量 (保管単位)	完全梱包のみ
1	パレット	1	0 個	なし
2	木枠	10	0 個	あり
3			ボックス 40 単位	あり

この例のオーダー数量は、16 の倍数の個数にする必要があります (ノード 3 のボックス 40 単位をノード 2 の木枠 10 単位に梱包) × 4 (個数からボックスへの変換係数 4)。

出庫処理

出庫オーダーラインについて出庫勧告が生成された後、出庫勧告をマニュアルで修正できます。出庫勧告の修正、または不足の特定を行ったときに、結果の数量が完全梱包数量の倍数でない場合、「完全梱包のみ」の条件が満たされていないことを示す警告メッセージが表示されます。ただし、処理を続行できます。

同一の原則が、部分出荷の場合に適用可能です。「完全梱包のみ」の条件からの逸脱が許容され、完全数量に満たない梱包を納入できます。出庫勧告の生成時に警告メッセージが表示された場合、「完全梱包のみ」の条件に合わせて数量を変更できます。

注意

LN では、出荷の確認時に「完全梱包のみ」のチェックを再実行しません。

CINDI 処理

自動車製造元は、発注先への構成要素のオーダー処理に各種の納入コンセプト/手順を使用しており、この結果、自動車業界のすべての発注先が従う必要のある手順と情報の要件が確立されました。これらの手順の 1 つは CINDI と呼ばれる広範な手順で、次の 4 つの様相で構成されます。

- 輸送 ID
- 物流ゾーン/工順コード
- 登録承認番号/カンバン/納入コール番号
- 消費地/仕向地

輸送 ID

輸送 ID は、出荷指示として顧客組織から発注先に送信され、工場に到着する必要がある納入 (積荷/出荷) を指定します。

LN では、輸送 ID として既存の出荷参照を使用できます。1 つの出荷につき輸送 ID を 1 つのみ使用可能にする場合は、倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [出荷ごとに固有の出荷参照] チェックボックスをオンにします。顧客が輸送 ID を指定しない場合、出荷参照の定義が必

須であるため、LN で一時 ID が作成されます。ただし、この ID は後日マニュアルで、出庫処理時に最終 ID に置換できます。一時 ID は、最終輸送 ID に置換されるまで、[凍結済] または [出荷済] の状況に維持できます。

一時 ID を最終輸送 ID (出荷参照) に適時置換するのは、ユーザの責任です。

物流ゾーン/工順コード

発注先に、納入先として、組織内の移送先をより細かく通知できます。この移送先は、物流ゾーンまたは工順コードとして定義できます。移送先は、荷降ドックでの入庫後に商品が移動する先の中間保管場所です。

物流ゾーン (または工順コード) が顧客組織から指定された場合、梱包を構築する基準として物流ゾーン (または工順コード) を常時使用する必要があります。この目的で、販売スケジュールラインに [梱包参照 A] というフィールドが追加されています。このフィールドは、出荷時に扱い単位を生成する基準として、倉庫オーダ、および出庫手順と出荷手順によりピッキングされます。

同一の物流ゾーンを移送先とする輸送 ID に含まれる要件/品目は、同一の扱い単位に結合できます。他の物流ゾーンを移送先とする品目/扱い単位と結合することはできません。

OEM 担当者が扱い単位の (中間) 移送先を即時認識できるように、物流ゾーン/工順コードを備考として、ラベルおよび伝票で利用可能にする必要があります。

消費地/仕向地

消費地 (POC) または仕向地 (POD) は、入庫品目の最終移送先です。これは通常、構成要素が使用される製造ラインまたは組立ラインです。

消費地 (POC) が顧客組織で定義され、かつ販売スケジュールに記録される場合、POC は扱い単位作成基準として使用されます。新しい扱い単位が、POC ごとに開始されます。したがって、新しい参照フィールドである [梱包参照 B] が追加されます。このフィールドは販売スケジュールから取得され、出庫オーダライン (whinh2120m000) セッションの [参照] メニューの [参照配分] オプション、および出荷 - ライン (whinh4131m000) セッションの [参照] メニューの [参照配分] オプションで表示できます。

扱い単位の作成時に、作成される単品 (最下位の梱包レベル、例: ボックス) は、消費地/仕向地が同一の品目を含む必要があります。ボックスとピッキングされる商品で消費地/仕向地が同一の場合にのみ、品目をボックス (単品) に梱包して出荷できます。

正確な POC への引当を容易にするために、POC の情報を梱包ラベルに出力する必要があります。

登録承認番号/カンバン/納入コール番号

登録承認番号 (RAN) も顧客組織が指定できます。この番号は、マスタ扱い単位についてカンバン/登録承認番号 番号が 1 つのみ使用できるシナリオで、マスタ扱い単位 (最上位の梱包品目、例: パレット) を作成するときの追加制約として使用できます。このようなマスタ扱い単位は「同種」と呼ばれます。一方、複数の登録承認番号、つまり登録承認番号が混在する扱い単位は「異種」と呼ばれます。

登録承認番号情報は、ラベル、および出荷伝票に出力できます。

倉庫手順

倉庫オーダと扱い単位を処理する手順。倉庫手順はさまざまなステップで構成されています。活動とも呼ばれるこれらのステップでは、入庫、保管、検査、出庫などを行うために倉庫オーダや扱い単位を取得する必要があります。倉庫手順は倉庫オーダタイプにリンクされているため、倉庫オーダに割り当てられます。

積荷

LN では、特定の日時に、特定の経路を使用して、特定の輸送手段で運搬されたすべての商品、出荷、あるいはそれら両方を指します。

事前出荷通知

出荷が送付済であることを知らせる通知。事前出荷通知は、電子データ交換を利用して送受信されます。倉庫に商品が到着することを知らせる事前出荷通知を発注先から受け取ることがあったり、発注した商品がまもなく納入されることを知らせる事前出荷通知を顧客に送信したりすることができます。

同義語: 出荷通知

略字: 事前出荷通知

事前出荷通知

次を参照してください: 事前出荷通知 (ページ 39)

出荷通知

次を参照してください: 事前出荷通知 (ページ 39)

納品書

トラック (またはその他の車両) 1 台を含む委託に関する情報を提供し、納品先住所の荷受人のオーダまたはオーダセットを参照する輸送文書。トラックの積荷にさまざまな取引先向けの出荷が含まれる場合は、積荷に複数の納品書が含まれます。納品書の情報には、納期と住所、顧客の名称、委託の内容などが含まれています。イタリアでは納品書は法律上必須の伝票であり、BAM (Bolla Accompagnamento Merci) と呼ばれていました。現在は DDT (Documento di Trasporto) と呼ばれています。ポルトガルとスペインでも納品書が使用されますが、イタリアのように法的な効力はありません。

出荷手順

倉庫オーダーまたは出荷について輸送処理するときに行われる手順。出荷手順では、出荷を輸送するときどの輸送書類(梱包リスト、梱包票、または積荷証券)を出力するのかを指定できます。各出荷ごとに、出荷手順が定義されます。出荷が [確認済] 状況になると、出荷手順に指定されている書類が出力されます。

発生元オーダー

オーダーの作成元であるオーダー。たとえば、販売オーダーから倉庫オーダーが作成された場合、販売オーダーがこの倉庫オーダーの発生元オーダーになります。

輸送理由

輸送が行われる理由、たとえば修理、販売、転送などを示す理由コード

納入コード

商品輸送の支払人を示す理由コード

索引

- 設定
 - 納品書, 9
 - 概要
 - 納品書, 7
 - 所有権
 - 輸送中の商品の所有権, 26
 - 活動
 - 納品書, 7
 - 扱い単位
 - 充填, 31
 - 追跡, 31
 - 倉庫手順, 39
 - 積荷, 15, 16, 17, 39
 - 納品書, 11
 - 輸送オーダ
 - 納品書, 11
 - 出荷, 15, 16, 17
 - 梱包, 31
 - 納品書, 7, 11
 - 出荷構造の構成 - コンテナ処理
 - 出荷構造, 19
 - 梱包定義
 - 扱い単位, 31
 - 積荷構築
 - 積荷ごとに 1 出荷先コード, 25
 - 出荷参照に基づく出荷作成, 21
 - 納入地点に基づく出荷構築, 23
 - CINDI
 - 自動車, 36
 - 出荷数量
 - 自動車, 35
 - 自動車業界向けの拡張, 31
 - 充填
 - 扱い単位, 31
 - 積荷ごとに 1 出荷先コード
 - 積荷構築, 25
 - 事前出荷通知, 39
 - 出荷通知, 39
 - マニュアルで作成された出荷
 - 納品書, 16
 - 納品書, 11, 15, 16, 29, 39
 - マニュアルで作成された出荷, 16
 - 仮 ID 番号と確定 ID 番号, 13
 - 概要, 7
 - 作成, 13
 - 出荷のリンク, 15
 - 設定, 9
 - 納品書を出力するには, 29
 - 出荷伝票, 11
 - 納品書, 7
 - 納品書の作成
 - 納品書, 13
 - 仮 ID 番号と確定 ID 番号
 - 納品書, 13
 - 納品書を出力するには
 - 納品書, 29
 - 輸送中の商品の所有権
 - 所有権, 26
 - 出荷のリンク
 - 納品書, 15
 - 出荷手順, 40
 - 発生元オーダ, 40
 - 倉庫管理における運送業者選択と原価計算, 26
 - 輸送理由, 40
 - 納入コード, 40
-
